

道徳研修だより

世羅町立せらひがし小学校

平成 30 年 10 月 10 日

9 月は、ひまわり A1 年の研究授業ありがとうございました。
感情カードを活用し、一人一人に考えをもたせ発表させる取り組みが行われていました。遅くなりましたが、研修のまとめです。いよいよ来週は研究会です。準備等よろしくお願いいたします。



1 道徳科の授業研究について

★ひまわり A1 年生「かぼちゃのつる」A 節度、節制

〈グループ協議より〉

課題設定

○成果 ●課題・改善点

○導入で自分の生活をふり返り（ICT 活用）、課題設定をする。

教材提示

- デジタル教材を活用した教材提示は有効だった。（児童画とても集中して見ていた。）
- 動画で話の内容がよくつかめていた。
- 動画に合わせて黒板に絵や言葉を提示していくのがよかった。
- 児童の実態によって分割提示をした方が考えやすい。

感情カード

- 自分の考えを発表させる手立てとして有効だった。
- どうしてそう思ったか理由を聞く必要がある。
- 表情と気持ちがあっていないところは、問い返しが必要。

自分とのかかわり

○展開後段で課題について問うたとき、出た考えナンバリングして選ばせるのは、自分の考えをもたせるのに有効だった。

課題設定

●登場人物になりきれていない児童がいるので、教師がモデルを示してから取り組ませる。

動作化

- 問い返しをして考えさせる。（立ち止まって考えさせる。）
- 教える場面があってもよい。
- ツールを選ばせる。
- 「自分だったら」と考えさせたが、どの時点に戻ったらよいか不明確だった。

〈授業評価表より〉 (%)

	評 価 項 目	4	3	2	1
		十分 できている	半分以上 できている	あまりで きていない	ほとんどで きていない
主体的な学びを促す効果的な「話し合い」の工夫					
①	教材、人、自分とのかかわりを大切にした指導の工夫	33	59	8	0
	考えの違いを表現したいと思えるような深める発問を工夫している。	42	50	8	0
	ペア・グループトークを充実させている。	25	67	8	0
	児童が考えを深められるような話し合い活動を工夫している。	33	59	8	0
	明確な視点を示し、児童が自分を見つめながらふり返られるように工夫している。	33	59	8	0
②	問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	71	29	0	0
	児童が考えてみたい、深めたいと思える必然性のある課題設定になっている。	75	25	0	0
	道徳的行為に関する体験的な学習、疑似体験的な表現活動を工夫している。	67	33	0	0
③	深い学びにするための発問等の工夫	54	46	0	0
	物事を多面的・多角的に考えられるような発問をしている。	25	75	0	0
	児童生徒の発言の背景に迫ったり、考えを深めたりするような手立て（切り返し・揺さ振りなど）をしながら授業を進めている。	58	42	0	0
	適切な中心発問である。	42	58	0	0
	中心発問にかかわる時間を十分に確保している。	67	33	0	0
	ねらいと中心発問（場面）が一本になっている。	58	42	0	0
	児童生徒の発言を価値に基づいて分類し、黒板に明示している。	75	25	0	0

〈指導講話より〉

- ・ A 節度，節制は「自分にとって」がポイント。主題観にもその記述があった。
- ・ 「わがままをしてしまいそうときは〇〇〇」これは方法を問うている。「わがままをしたらなぜいけないのか。」まず，ここが大切。それがわかったうえで「じゃあどうする？」となる。
- ・ 板書では，かぼちゃのわがままな台詞を，色を変えて強調すると分かりやすい。
- ・ 中心発問では，わがままをしていた結果を押さえたうえで，問う。
- ・ 出た考えを広げるために，「なんでそう思うの？」と問う。
- ・ 児童の考えを類型化して整理することとはよい。
- ・ 「自分だったら」ではなく，導入の問題場面に戻ってどうしたらよかったかを考えさせるとよい。
- ・ 今の子どもたちは我慢をすることが少ない。我慢してよかったことを紹介してよさを実感させるとよい。

〈今後の取り組み〉

- ・ 児童の実態把握から問題意識をもたせ，課題意識につなげる。
- ・ 児童実態をもとに，指導を考える。※「どこまで考えさせるか」「どこを教えるか」
- ・ 深める発問「問い返し」，「比較」をするなどして，立ち止まって考えさせる。

- ・感情カードの活用→理由を問う。
- ・思考ツールを選ばせる。
- ・教師がモデルを示す。